



## 令和7年度 知的財産権制度活用優良企業等表彰

### 知財功労賞 経済産業大臣表彰

#### デザイン経営企業

富士フイルムホールディングス株式会社 CEO・代表取締役社長 後藤 禎一

#### 企業概要

<https://holdings.fujifilm.com/ja>

所在地：東京都港区赤坂9丁目7番3号

創立：1934年

資本金：40,363百万円

従業員：72,254人

事業概要：「ヘルスケア」、「エレクトロニクス」、「ビジネスイノベーション」「イメージング」の4分野で幅広く事業を展開



#### 受賞のポイント

- ①経営層にデザイン責任者を置き、経営戦略、CI（ブランド）戦略とデザイン部門の可視化力・提案力・観察力・兆読力を結びつける。事業や開発の最上流からデザイン部門が関わることで、「ありがとう」（社内の声）、「いいね」（社外の声）、「たのむ」（信頼感）の良循環が回っている。
- ②「富士フイルムをデザインする」ことを目指し、CLAYスタジオを開設。独立した空間でユニークな発想が生まれ、新たな製品、サービスに加え事業分野の創出にも繋がっている。「現場にこそデザインの答えがある」との考えから繰り返し現場検証を行って潜在ニーズを発掘し、小型・軽量の移動型X線撮影装置や往年のフィルムカメラを思わせる高価格帯のデジタルカメラ「Xシリーズ」など、イノベーションの創出、ブランド力向上に貢献。
- ③知財部門は同じ横軸部門であるデザイン部門と協働し、デザインと技術の両面から自社の強みを無形資産で保護・強化。事業部門、研究開発部門とも密に連携し、IPランドスケープを活用した開発方針策定への寄与や、事業優位性を獲得する標準化戦略、事業利益を最大化する権利活用など、事業に大きな貢献。



「富士フイルムをデザインする」ことを体現したCLAYスタジオ。当社デザイナーがコンセプト作りから建築デザイン・空間デザインを手掛けた



1・2階は大きな吹き抜けで「開放」を具現。地下ホールは「高揚」の場と位置づけ、2層分の大空間となっている



「現場にこそデザインの答えがある」との考えから繰り返し現場検証を行って潜在ニーズを発掘した製品群



小型・軽量の移動型 X 線撮影装置（令和3年度全国発明表彰で「経済産業大臣賞」を受賞）とデジタルカメラ「Xシリーズ」（国内外のデザイン賞を多数受賞）